

No.196

平成28年12月22日
鹿児島県立甲南高等学校
鹿児島市上之園町23番地1
TEL (099) 254-0175
題字 秋元望花 (本校教諭)

甲南だより

はるかなる 理想の嶺をめざして

創立百十周年記念式典

十一月十九日(土)、多数の来賓、同窓会関係者を迎え、創立百十周年記念式典が挙行された。

天候が心配されたが、何とか持ちこたえて、多くの生徒達が受付や接待、来賓等の誘導を職員と一緒にこなして行中、同窓会主催による亡師亡友慰霊祭から予定通りに始まった。

式典会場の体育館には、市来農芸高校の生徒の皆さんが丹精を込めて育てたシクラメンが彩り鮮やかに飾られ、また、南側の二階ギ

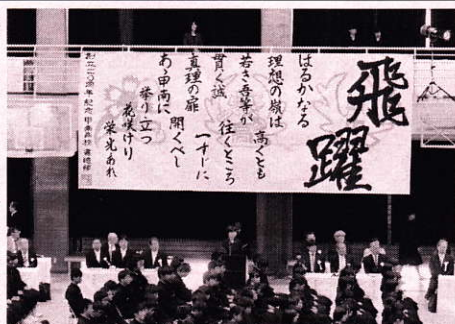


ヤラリーには、書道部の生徒が全員で協力して書き上げた3m×7mの大きさの校歌が掲げられ、厳粛な雰囲気醸し出していた。

記念式典は、KBC(放送部)の生徒によって司会進行が行われ、さすがに毎日の練習で鍛え上げているアナウンスには来場者から賞賛の声が聞かれた。

県知事、県議会議長、県教育委員会、鹿児島市長、PTA会長から、甲南生に対し、これからの世界を切り開いていくリーダーとして成長していくことを期待している旨の御祝辞をいただき、また、それに応えて、生徒会長の吉見功太郎君が、百年の伝統の重みを深く自覚し、先輩方の後に続くべく更に努力していくことへの誓いを生徒代表喜びの言葉として述べた。

前日に通り初め式を行った「甲南の小径」の寄贈者である坂元英郎氏へ感謝状が贈られた後、二中・二高女の校歌披露では、野球部の生徒が二中校歌を、音楽部の生徒が二高女校歌を披



露。二中・二高女の先輩方も一緒に口ずさんでいらっしやった。

最後は、吹奏楽部の力溢れる演奏に合わせ出席者全員で甲南高校校歌を高らかに斉唱し、式典を終了した。式典では、随所に生徒達が活躍する場面があり、式典の華やかさに花を添えていた。

式典の計画・運営にあたって御尽力くださった、関係の皆様にご心より御礼を申し上げます。

創立百十周年記念講演

平成二十八年第三回甲南塾十一月十九日、創立百十周年記念式典が行われた後、記念講演(平成二十八年第三回甲南塾)が開催されました。講師に、甲南二十三期で三井化学株式会社次世代事業開発室シニアリーダー・アドバイザーの川島信之先生をお招きし、「化学も人生も、Etwas Neues」という演題で御講演いただきました。

川島先生は、学生時代に有機化学を専攻され、大学院修了後、現在御勤務されている三井化学に研究者として入社されました。米国に研究留学をされたほか、これまで主に新製品・次世代事業開発の業務を担当されていらっしやいます。

さらに、平成二十一年から今年六月まで公益財団法人日本化学会常務理事兼事務局長を務められ、日本の化学の国際的存在感を高めるための活動に取り組みされました。特に、国際交流や日本のサイエンス・イノベーションを海外で紹介する活動の一環として、本校の前身である二中を卒業された赤崎勇先生のシンポジウムを実現され、一昨年に行われた赤崎先生のノーベル物理学賞の授賞式にも同行されるなど、多方面で御活

躍されています。御講演では、多くのスライドを使って、先生自身これまでの御経験や、赤崎先生や丹下ウメさんなど多くの科学者のエピソードなどをユーモアやクイズなどを交えて話していただき、生徒たちは熱心に聞き入っていました。なかでも、赤崎先生のノーベル物理学賞受賞に関するエピソードは、生徒たちと同じ学舎を卒業した大先輩に関することでもあり、非常に興味深く耳を傾けていました。



先生は、今回の演題である「Etwas Neues」が意味する「人生のあらゆる場面において、新しいことに挑戦し、何かを探し求める」という言葉だけではなく、「諦めなければ未来は開ける」、「事実よりも価値の発見の方が大切である」、「失敗や間違いを恐れずに、一歩踏み出す」など多くの言葉を残されましたが、この記念講演を通して、生徒たちは今後の人生をより深く考える貴重な機会となりました。